

令和5年度 九州がんセンター がん看護専門研修
-がん薬物療法看護コース-

がん薬物療法による副作用のアセスメントとセルフケア
支援副作用対策と対応②「悪心・嘔吐」



令和5年11月28日 9:00~10:00

国立病院機構九州がんセンター

がん化学療法看護認定看護師 鳥越 勇生

事前課題のお知らせ

事例 A氏 50歳代 女性

【現病歴】

労作時の呼吸苦と咳嗽を主訴に受診。精査の結果、右小細胞肺癌 StageⅢの診断。1次治療としてCDDP+ETP療法導入となった。呼吸苦に対してモルヒネ錠 10mg/日+レスキューとしてオプソ5mg/2~3回内服し症状コントロールしている。PS1 理解力良好。

【既往歴】

特記する疾患なし。乗り物酔いしやすく、妊娠中、悪阻の既往あり。

【家族背景】

夫と子供の3人暮らし キーパーソンは夫
患者・家族ともに初回がん薬物療法のため副作用に対する不安が強い。

事前課題のお知らせ

事例 A氏 50歳代 女性

- Day1 シスプラチン投与する。
- Day3 悪心の主訴。制吐薬の内服にて症状コントロールを図る。
- Day5 悪心・嘔吐持続しており経口摂取量の低下している。
水分摂取はできており補液はしていない。
- Day6 悪心・嘔吐のためにトイレ以外は、ベッドに臥床していることが多い。

事前課題のお知らせ (IASMの流れ)

1. 症状の定義を明らかにする
2. 症状のメカニズム（機序）と出現形態を理解する
3. 患者の体験（認知、評価、反応）とその意味を理解する
4. 症状マネジメントの方略を明らかにする
5. 体験と方略、その結果を明らかにし、セルフケア能力の状態で
該当するレベルを判断する
6. 看護師が提供する知識、技術、サポートの内容を決定し実施する
7. 看護活動による効果を判定する